

アトピカでワンちゃんの
アトピー性皮膚炎を
治療されるオーナーさまへ



アトピカは動物と人に笑顔を届けます

監修：門屋 美知代 先生（かどやアニマルホスピタル / 東京都）

いつものように過ごす幸せ。

 **NOVARTIS**
ANIMAL HEALTH


アトピカ®
カプセル

ワンちゃんに 「かゆみ」がありませんか？



ワンちゃんがかゆみで皮膚を引っ掻いたり、皮膚が赤くなったり、毛が抜けてしまったりしていませんか？

これらはワンちゃんの皮膚の「かゆみ」によってもたらされる症状で、さまざまな原因が考えられます。かゆみを引き起こす皮膚疾患には、原因を取り除けば治るものと、そうではないものがあります。

いずれにしても、早期からの治療が重要になりますので、ワンちゃんがかゆそうにしていたら、すぐにかかりつけの獣医師の先生に相談しましょう。

Contents	1	ワンちゃんの皮膚と「かゆみ」	2
	2	「かゆみ」の原因となる皮膚疾患	3
		① 寄生虫が原因の皮膚疾患	4
		② 細菌や真菌が原因の皮膚疾患	4
		③ アレルギーが原因の皮膚疾患	5
	3	アトピー性皮膚炎とは？	6
	4	アトピー性皮膚炎の原因	7
	5	アトピー性皮膚炎の治療	8
	6	アトピー性皮膚炎とつきあっていくために	9
	7	アトピカによる治療	10
	8	ステロイド剤との違い	11
	9	アトピカの副作用	11
	10	アトピカの飲ませ方	12
	11	アトピカによる治療の注意点	13
	12	アトピカの投与量について	13
	13	治療日誌をつけましょう	14

1

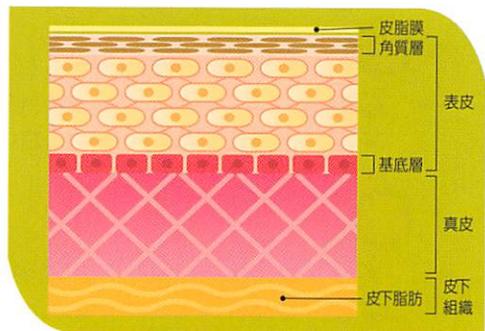
ワンちゃんの皮膚と「かゆみ」

ワンちゃんの皮膚は、私たち人間と構造が異なる点がいくつかあります。そのため、皮膚の病気やかゆみが起こりやすくなっています。

! ワンちゃんの皮膚は人間より薄い

ワンちゃんの皮膚は、人間と同じく表皮・真皮・皮下組織の三層構造をしています。表皮の外側にある「角質層」は、刺激や乾燥などから体を守るバリアの働きをしています。ワンちゃんは、この表皮が人間の1/5程度の厚みしかありません。ワンちゃんの皮膚は、人間より薄いデリケートなものなのです。

🕒 皮膚構造



! 弱アルカリ性で細菌が繁殖しやすい

人間の皮膚はpH5.1～5.5の弱酸性ですが、ワンちゃんはpH7.2～9.0の弱アルカリ性です。この弱アルカリ性は、細菌などの病原体が繁殖しやすい環境で、皮膚病にかかりやすいのです。

! 皮膚のターンオーバーが短い

表皮の一番下にある基底層は、新しい細胞を作り出します。細胞は徐々に角質層まで押し上げられ、最後にははがれ落ちます。これは皮膚のターンオーバーと呼ばれ、人間の場合は約28日サイクルですが、ワンちゃんは約20日と短いサイクルです。

このターンオーバーの周期が何らかの原因で短くなると、新しく作り出される細胞が不完全なままフケとなり、はがれ落ちます。皮膚病を引き起こす細菌は、このフケをエサにしています。ターンオーバーの周期が短くなりエサが増えると、細菌は繁殖しやすくなります。

2

「かゆみ」の原因となる皮膚疾患

かゆみが強い場合に疑われる皮膚疾患

1 寄生虫が原因

- 疥癬……………皮膚の中にヒゼンダニ(疥癬虫)が寄生
- 毛包虫症……………毛穴の中にイヌニキビダニ(毛包虫)が寄生



2 細菌や真菌が原因

- 膿皮症……………皮膚に付着する細菌が増殖
- マラセチア皮膚炎……………皮膚や耳の中にいる真菌が増殖



3 アレルギーが原因

- ノミアレルギー……………ノミの唾液に対しておこるアレルギー
- 食物アレルギー……………食物中の成分に対しておこるアレルギー
- アトピー性皮膚炎……………環境中の物質に対しておこるアレルギー



これらの皮膚疾患は、単独で発症することもあります。複数の疾患が同時に発症していることもあります。

かゆみの原因を探す — 診断方法 —

かゆみの原因をつきとめる際には、検査を順番に行い、疑わしいものを排除していきます。検査は、より確認しやすい原因から行います。

かゆみの原因は？ ▶

順番に検査を行う

1. 寄生虫
2. 細菌・真菌
3. ノミ(アレルギー)
4. 食物

…………… ↓
これらが原因でない場合

アトピー性皮膚炎の
可能性が高い

1 寄生虫が原因の皮膚疾患

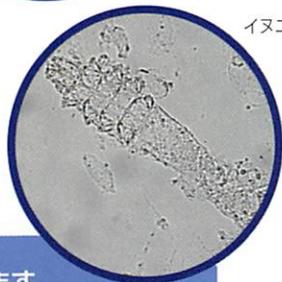
疥癬、毛包虫症

疥癬はヒゼンダニ（疥癬虫）、毛包虫症はイヌニキビダニ（毛包虫）が皮膚に寄生することでかゆみを引き起こします。

症状：かゆみ、脱毛、発赤



ヒゼンダニ



イヌニキビダニ

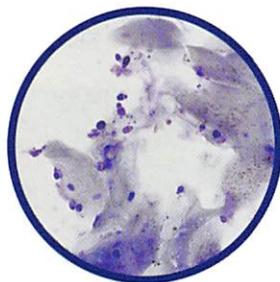
治療法 注射や滴下剤、飲み薬で治療をします。
病院で毎回検査をして、ダニが完全にいなくなるまで治療を続けます。

2 細菌や真菌が原因の皮膚疾患

膿皮症、マラセチア皮膚炎

膿皮症は皮膚に付着している細菌が原因となってウミがたまり、マラセチア皮膚炎は真菌（カビの一種）が原因で皮膚が脂っぽくなります。

症状：膿皮症……かゆみ、赤いブツブツ、
ドーナツ状や円形の赤み・脱毛
マラセチア皮膚炎……かゆみ、赤み、べたつき、脱毛、強いにおい



マラセチア

治療法 おくすりや薬用シャンプーの組み合わせで治療します。
再発しやすいので、定期的なシャンプーが効果的です。

3 アレルギーが原因の皮膚疾患

ノミアレルギー

ノミの唾液に対するアレルギー反応です。
ノミが繁殖しやすい春先から夏にかけてみられます。

症状：強いかゆみ、腰や背中にブツブツ、
ノミの糞が毛の根元に付着



ノミ

治療法 ノミの駆除剤によって治療します。
ノミの再寄生を防ぐために、年間を通して予防します。

食物アレルギー

食物中のタンパク質や炭水化物などの成分に対しておこるアレルギー反応です。1歳未満の比較的若いワンちゃんに多くみられます。

症状：強いかゆみ、発赤(目や口のまわり、耳、頭)、外耳炎、下痢・嘔吐

治療法 動物病院の「療法食」という特別なフードを2カ月程度与えて、アレルギーの原因となる食物を特定した上で、治療方針を決定します。

これらの皮膚疾患が原因ではない場合、かゆみの原因は**アトピー性皮膚炎**である可能性が高くなります。アトピー性皮膚炎については、次ページ以降で詳しく解説しています。

3 アトピー性皮膚炎とは？

ワンちゃんの「かゆみ」の原因が、ダニ、細菌・真菌、ノミ・食物アレルギーではない場合には、**アトピー性皮膚炎**が原因である可能性が高くなります。ワンちゃんのアトピー性皮膚炎には、次のような症状がみられます。



ワンちゃんが長い間アトピー性皮膚炎にかかっていると、症状が全身に広がる場合があります。とてもかゆいので、体を舐めたり引っ掻いてしまい、毛が抜けたり、皮膚の表面がむけてしまう、といった症状がみられることもあります。慢性化すると皮膚が黒ずんだり厚くなったりします。

一般的に、アトピー性皮膚炎は完全に治すことが難しいと言われていますが、現在は薬での治療などによって、病気がうまくつきあっていくことができます。

◎ 好発犬種

アトピー性皮膚炎は遺伝的要因などが関係していると考えられており、アトピー性皮膚炎にかかりやすい犬種(好発犬種)が報告されています。

柴犬、ウエスト・ハイランド・ホワイトテリア、ゴールデン・レトリバー、シーズー、ヨークシャー・テリア、ビーグル、ラブラドル・レトリバー、マルチーズ、フレンチ・ブルドッグなど



4 アトピー性皮膚炎の原因

ワンちゃんの体の中では、侵入してきた異物を退治しようとするしくみ(免疫)がはたらいています。アトピー性皮膚炎と診断されるワンちゃんは、環境中に存在するアトピーの原因物質(アレルゲン)に対して免疫が過剰にはたらくている(アレルギー反応)とされています。

アレルギーの原因物質(アレルゲン)

ワンちゃんのアレルギー反応は、ダニ、ノミ、ハウスダスト、花粉、カビなどが原因物質となり引き起こされます。これらは日常生活における環境中に潜むものであるために、排除することは難しく、そのためアトピー性皮膚炎と診断された場合には、適切な治療を継続していくことが必要になるのです。

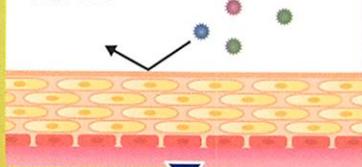
かゆみのしくみ

皮膚の水分や脂分が不足するなどして皮膚が弱っていると、異物の侵入を防ぐ機能が低下して、アレルゲンが体内に入り込みやすくなります。その結果、アレルギー反応が起き、ワンちゃんのかゆみの原因となっています。

健康な皮膚とアトピー性皮膚炎の皮膚

健康な皮膚

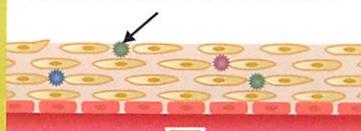
皮膚のバリア機能が保たれているため、アレルゲンや細菌などが入りにくい状態です。



かゆくありません

アトピー性皮膚炎の皮膚

皮膚のバリア機能が低下しているため、アレルゲンや細菌などの悪化因子が入りやすくなります。また、汗など外部からの刺激に対しても敏感になります。水分や脂分のバランスが崩れ、乾燥したりベタついたりします。



とてもかゆくなります

5 アトピー性皮膚炎の治療

アトピー性皮膚炎の治療にはさまざまな方法があります。完治は難しいと言われてはいますが、放置しておくとうんちゃんの症状はどんどん悪化していきますので、早めに適切な治療を始めることが大切です。

アトピー性皮膚炎の主な治療法

- **アトピカ**……………アトピー症状を引き起こす、過剰な免疫のはたらきをブロックして（免疫抑制剤）アレルギー反応を抑えるおくすり。
- **ステロイド剤**……………かゆみと炎症を抑えるおくすり。
- **減感作療法**……………アレルゲンを少しずつ注射して体を慣れさせ、アレルギー反応を起こさないようにします。
- **インターフェロン製剤**…犬のアレルギー体質改善を目的としたおくすり。
- **必須脂肪酸**……………不足すると皮膚病や免疫力低下の原因となる必須脂肪酸を、サプリメントなどによって補います。
- **薬用シャンプー**……………アレルゲンや細菌などの異物を除去することで皮膚を清潔に保ちます。

治療のメリットとデメリット

それぞれの治療法にはメリットとデメリットがあります。

方法	メリット	デメリット
アトピカ (免疫抑制剤) <small>詳しくは10ページ</small>	効果が高い ステロイドと比べて全身性の副作用がでる確率が低い QOLを改善する*	一過性の嘔吐・下痢などの副作用がある ステロイドと比べ効果が見られ始めるのがゆるやか
ステロイド剤	即効性がある 値段が安い	長期使用で、体中にさまざまな副作用を引き起こす、また、効果が薄れる
減感作療法	完治の可能性がある 副作用がでる確率が低い	特殊治療のため、実施できる施設に限られる まったく効かない場合もある
インターフェロン製剤	副作用が少ない	注射が必要
必須脂肪酸	皮膚、被毛の健康維持	効果がでるのが遅い
薬用シャンプー	副作用がほとんどない	直接的な治療ではない 頻繁に行う必要がある

*Quality of life (生活の質)。表紙裏の「ペットオーナーさまの声」をご覧ください。

6 アトピー性皮膚炎と上手につきあっていくために

アトピー性皮膚炎の治療中は、ワンちゃんのために以下のことに気をつけましょう。

▶ こまめに部屋を掃除しましょう

(アレルギーの原因となるダニ、ノミ、ハウスダストなどを少なくします)



▶ ワンちゃんに合った薬用シャンプーで肌を清潔に (皮膚の状態を良好に保ちます)



▶ 適度な運動でストレス発散



▶ 獣医の指導にしたがってフードを与えましょう



その他獣医師の指示にしたがってください。



アトピー性皮膚炎は、完治することが難しい病気です。しかし、長い時間をかけてじっくりと治療することで、かゆみなどの症状をコントロールすることができます。ワンちゃんのかゆみを和らげて、オーナーさんと楽しく毎日を送れるように、かかりつけの獣医師の先生とよく話し合い、気になることがあればすぐに相談するようにしましょう。

7

アトピカによる治療

● アトピカってどんな薬？

アトピカは「**免疫抑制剤**」と呼ばれ、体におこる異常な免疫反応を抑えるお薬です。アトピカは別名「**シクロスポリン**」と呼ばれ、ワンちゃんのアトピー性皮膚炎の治療に使われます。なお、シクロスポリンは人間のアトピー性皮膚炎にも使われています。

アトピカは、アレルギーの原因となる原因物質（**アレルゲン**）の体内への侵入によって起こる過剰な免疫のはたらきをブロックし、アレルギー反応を抑えることで、ワンちゃんのアトピー性皮膚炎の症状を和らげます。

治療前



アトピカで治療後



写真提供：神奈川県 タヤけの丘動物病院様(上段)
広島県 こうじば動物病院様(下段)

● アトピカの効果

アトピカは日本を含め世界23 ヶ国で既に高い評価を得ており、日本国内の臨床試験では、76.4%のアトピー性皮膚炎のワンちゃんに有効であり、かゆみや脱毛といった症状を改善させたという報告がされています*。

*ノバルティスアニマルヘルス社内資料

※ P10-13はノバルティス アニマルヘルス株式会社より製造販売されている「アトピカ*カプセル」に関する情報です。

8

ステロイド剤との違い

ステロイド剤は、アトピー性皮膚炎の治療の薬剤の1つとして多く使用されています。即効性がありますが、長期間にわたって多量に使用すると全身にさまざまな副作用を引き起こすと言われています。

アトピカは、体内でアレルギー反応を起こす仕組みである「免疫のはたらき」のみをターゲットとして作用し、その過剰なはたらきをブロックすることでアレルギー反応を抑えます。皮膚だけでなくいろいろな臓器に作用するステロイド剤に比べて副作用が少ないことが特徴です。

アトピカとステロイド剤の効き方の違い

アトピカ[®]

アトピー症状を引き起こす「原因である免疫*のはたらき」だけに作用する

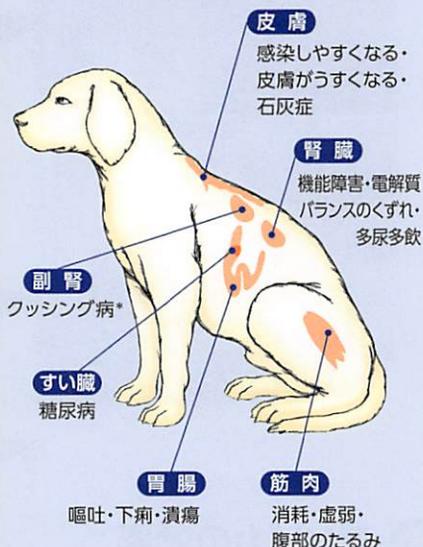
(一過性の嘔吐・下痢などの副作用がある)



*免疫: 体内に侵入してきた異物から体を守るためのしくみ。しかし過剰反応によりアトピーなどのアレルギー症状を引き起こしてしまうことがある。

ステロイド剤

早く効くが、全身に作用するため、体中にさまざまな副作用を引き起こす



*クッシング病: 副腎から、ステロイドホルモンが過剰に分泌され、代謝に異常が起こる病気。肥満、免疫力の低下、糖尿病、高血圧、神経症状などさまざまな症状を引き起こす。

9 アトピカの副作用

アトピカを服用していると、嘔吐や下痢などの胃腸障害がみられる場合があります。多くは一時的に発症するもので、おくすりを飲み続けていると次第におさまりますが、まれに症状が続くことがあります。もしワンちゃんにこのような症状がみられた場合は、かかりつけの獣医師の先生にご相談ください。

10 アトピカの飲ませ方

アトピカは空腹時に与えることが推奨されます。

アトピカを飲ませるときには…

- カプセルを砕いたり、割ったりしないでください。
(中身は液体なので、飛び出してしまう可能性があります)
- カプセルを飲ませにくい場合、獣医師の先生に相談してください。

◎ カプセルの飲ませ方



1 上下のあごをつかみ、
口を開かせる。



2 錠剤を舌の奥に置き、
口を閉じる。



3 口を開かせないように
押さえたまま、喉元を
なでて飲み込ませる。

11

アトピカによる治療の注意点

ワンちゃんによって異なりますが、アトピカによる治療を始めてから通常1ヵ月程度で症状の改善がみられます。

- ワンちゃんの体重によって服用する量が違います。獣医師の先生の指示に従い、薬の**用法・用量を正しく**守りましょう。
- カプセルは**飲ませる直前に**薬のパッケージから出します。薬のパッケージから出すと独特の臭いがしますが、品質には問題ありません。

ステロイドと違いアトピカの効果はゆるやかに現れます。お薬をスタートしてから1ヵ月、毎日しっかりお薬を飲ませましょう。

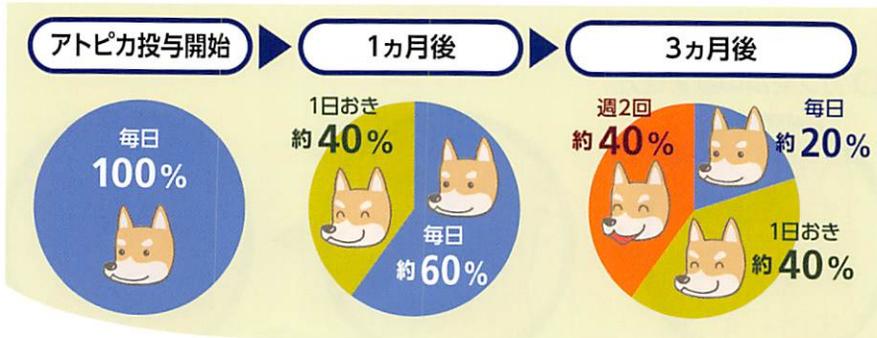
12

アトピカの投与量について

アトピカは、症状が改善すると投与回数を減らすことができます。

アトピカを毎日飲んでいただいていたワンちゃんのうち、1ヵ月後には約40%が2日に1回に、3ヵ月後には約40%が週2回に減らすことができます。

📍 お薬を飲む頻度(ワンちゃんの頭数の割合)



アトピカによる治療中に、ワンちゃんの様子ことや不安なことがあったら、**かかりつけの**

13 治療日誌をつけましょう



症状や活動性、睡眠などを記録しましょう。

写真を撮って経過をチェック  すると、治療の効果などを知ることができます。

月	<p>症状</p> <p>非常にかゆがる ◀ 1 2 3 4 5 ▶ ほとんどかゆがらない</p> <p>活動性</p> <p>元気がまったくない ◀ 1 2 3 4 5 ▶ 元気で活発</p> <p>睡眠</p> <p>寝ていない ◀ 1 2 3 4 5 ▶ よく寝ている</p>	<p>投与</p> <p>した ・ しない</p> <p>投与時間</p> <p>時 分</p> <p>投与回数</p> <p>日に1回</p>
月	<p>症状</p> <p>非常にかゆがる ◀ 1 2 3 4 5 ▶ ほとんどかゆがらない</p> <p>活動性</p> <p>元気がまったくない ◀ 1 2 3 4 5 ▶ 元気で活発</p> <p>睡眠</p> <p>寝ていない ◀ 1 2 3 4 5 ▶ よく寝ている</p>	<p>投与</p> <p>した ・ しない</p> <p>投与時間</p> <p>時 分</p> <p>投与回数</p> <p>日に1回</p>
月	<p>症状</p> <p>非常にかゆがる ◀ 1 2 3 4 5 ▶ ほとんどかゆがらない</p> <p>活動性</p> <p>元気がまったくない ◀ 1 2 3 4 5 ▶ 元気で活発</p> <p>睡眠</p> <p>寝ていない ◀ 1 2 3 4 5 ▶ よく寝ている</p>	<p>投与</p> <p>した ・ しない</p> <p>投与時間</p> <p>時 分</p> <p>投与回数</p> <p>日に1回</p>

に気になることがあったり、その他にも心配な
獣医師の先生にすぐに相談しましょう。

Pet Owner's Voice

オーナーさまの声

- 朝まで眠ることができるようになった、人間も犬も。
- かゆみが治まり、ヒステリックにかかなくなった。皮膚の状態もよくなった。とても落ち着いて生活できるようになった。
- かゆみが減り、イライラがなくなり、おだやかに過ごせるようになった。
- かゆみがおさえられているためか、犬の機嫌が良くなり遊ぶようになった。
- 夜中かゆがらないので、ぐっすり眠れるようになった。



詳しくは当院にご相談ください

【製造販売業者】

ノバルティス アニマルヘルス株式会社
東京都港区西麻布4丁目12番24号

【販売元】

共立製薬株式会社
東京都千代田区九段南1-5-10